

5. 彦山の溶岩

地域	長崎市本河内彦山登山口—彦山頂上—重葺
交通	電車螢茶屋終点より徒歩，バスは妙相寺口下車
地形図	長崎（1/50,000），長崎東南部（1/25,000）

彦山は稲佐山，唐八景などと並んで長崎市民に親しまれている。彦山は火山だといわれる。図1に示すように，輝石安山岩質の溶岩と同質の火山角れき岩（火山灰や火山れきが固まった岩石）が交互に重なっているからであろう。それぞれの岩層の重なり方と厚さは図2のようである。

下部互層は複輝石安山岩で暗灰色の溶岩と同質の火山角れき岩の互層で中島川底に露出している。下部溶岩としたものは矢ノ平の町から水源池②付近までみられ，ゆるく北に傾斜している。淡灰色で前者より大きめの白い斜長石が目立つ岩石である。この上に再び溶岩と火山角れき岩の互層（上部互層）が重なっている。彦山の山体の大部分はこの互層であるが，良い露頭は少ない。彦山の山頂付近にみられるのが上部溶岩で，顕微鏡でみるとしそ輝石の針状の結晶が含まれているのが分かるが，肉眼では無斑晶質の灰色の玄武岩のように見える。螢茶屋方面からみると山頂付近の大きな崖③はこの溶岩流である。

こうみてくると彦山の山体は火山活動によって噴出した火山岩で形成されたことはたしかである。しかし，噴火口が彦山の位置にあったことにはならない。彦山をつくる火山岩の一枚一枚は谷をへだてて隣の烽火山やこしき岩と大体つながる。図2にはつながる相手を線で結んで対比した。下部溶岩は，はるか南の小ヶ倉や西の方の諏訪神社方面へも伸びている。火口の位置は不明であるが，長崎市

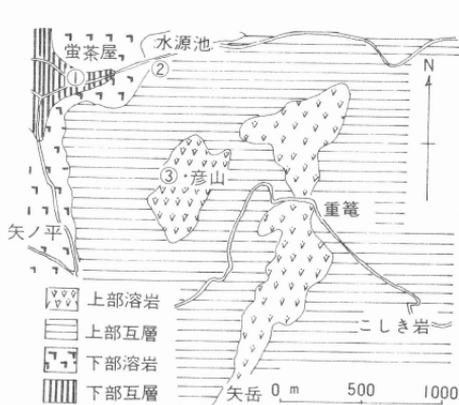


図1 彦山付近地質略図

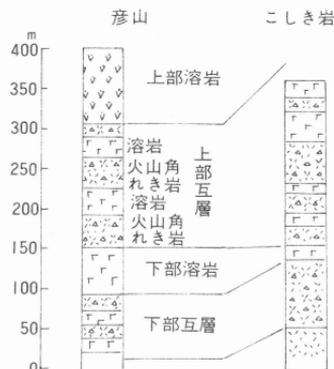


図2 彦山とこしき岩の火山角れき岩と溶岩の重なり方の比較

周辺に広く流れた溶岩の一部が、彦山の山体を形成していることは間違いなさそうである。長崎市周辺に分布する火山岩類から想像すると高さ 1,500mあるいはもっと高い大きな成層火山が第四紀初期（約 100万年前）には、長崎市の上にそびえ立っていたことであろう。この火山は活動が終ると浸食されて、今は山体の大部分を失ってしまった。そしてその残丘が彦山や稲佐岳や三ツ山などの長崎市の周辺部をとり囲む山々なのである。このまぼろしの火山を“長崎火山”と呼んでいる。
(堀口承明)